

第5回手稲山口地域協議会

<開催詳細>

- 日時 : 令和4年12月11日(日)13:00～
- 場所 : 山口処理場管理棟会議室
- 参加者 : 手稲山口地区の住民等8名
- 事務局 : 札幌市新幹線推進室、鉄道・運輸機構
- オブザーバー : 札幌トンネル(星置)特定建設工事共同企業体(鹿島JV)

■工事の現状と今後の見通しについて

<確認内容>

鉄道・運輸機構により、現在の工事状況と今後の工事予定について説明を行った。

<主なご意見>

- ・遮水壁の工事が始まっているが、音については大きく出ていることはないのか。
→周辺にお住まいの方々に確認しながら進めており、音が気になるという声は寄せられていない。
- ・遮水壁の工事が終わるのはいつ頃になるのか。
→冬の間も順次工事を進め、全体としては来年の9月～10月に終了する見込みである。

■前回までの協議会のご意見に関連する報告事項等について

<確認内容>

札幌市新幹線推進室より、山口緑地パークゴルフ場西コースにおけるトイレ改修について、進捗状況を報告した。

<主なご意見>

- ・特になし

■その他

<確認内容>

札幌市新幹線推進室より、札幌市議会での審議結果についての情報提供を行った。

<主なご意見>

- ・特になし

■地域づくりの方向性と今後の取組について

地域づくりの方向性と今後の取組について、2つのグループに分かれて意見交換を行った。

<主なご意見>

○産業の価値を高める

- ・ブランド野菜の魅力の発信に加えて、都市近郊地域のメリットを活かした活気ある地域づくりが必要である。
- ・国道から畑が見えないため、農業が盛んという特徴が感じられない、車で通過する地域となっている。小樽や海や山、ゴルフ場やスキー場にも近いという立地を生かして、観光の

要素を取り入れ、観光客が車を降りて立ち寄れるような拠点となる施設が必要なのではないか。農産物の直売所や市民農園やキャンプ場など、農業やアウトドアを楽しめる場所になるのではないか。

- ・カーボンニュートラルの取組など、新しい視点を取り入れた農業の取組を進めていけると面白いのではないか。
 - ・新しい取組を進めていくために、大学と連携していけると良い。まずはどのような研修室とどのような形で連携が可能か、調べてみる必要がある。
 - ・農産物の直売所には夏場に多くの人が訪れており、仮設の施設でマルシェなどをやってみても良いのではないか。子どもたちがくつろげるような仕掛けをするなど、農産物プラスアルファの取組みとして、みんなが集まりやすい場所になるのではないか。
- 大事な文化を継承する
- ・拠点となる施設があれば、風雪太鼓の発表や練習の場に活用できるのではないか。
- 将来の土地利用を考える
- ・将来の土地利用を考えるうえで、現状の土地の使われ方や、耕作放棄地の割合などを調べてみることは大切である。
 - ・現状を把握したうえで、耕作放棄地の新しい活用についても考えていく必要がある。
 - ・新規就農者の方が入りやすくなるための課題や改善点について整理していきたい。
 - ・農業振興地域の仕組みなど、ルールの基礎を学ぶ機会があると良い。
 - ・自然豊かな場所で暮らしたいといった若い世代の移住地としての可能性もあるのではないか。
 - ・農地を受け継いでいくためにも、収入が安定していることが大切。農地面積や収穫量等に依拠して指定を解除できるような、現状に対応した制度やルール作りが必要ではないか。
 - ・受入地の活用についても、地域づくりの取組と位置付けて検討していく必要がある。
- 地域の担い手を育てる
- ・農業の新しい担い手を受け入れていくための取組が必要である。
 - ・大学との連携により、学生アルバイトの受け入れなどにつながっていくと良い。
 - ・次世代を担うメンバーでどんな実践ができるか話し合う機会を来年度からつくりたい。どんなメンバーで、どんなテーマで実施するか具体的な企画ができるといい。